

ホメオパスは、全体像を捉えることが目的になります。
症状をすべて捉えることが全体像を捉えたことにはなりません。特に主訴と SRP に注目して、その中身をしっかりと捉えたら、おのずから全体像は明確になって来ます。

主訴と SRP には、その人の何が表現されているのでしょうか？

ご存知のように、ハーネマンは、オルガノン § 153・154 で、SRP についての重要性を述べています。

(オルガノン抜粋)

§ 153 SRP だけに目を向けても良い。ありふれた症状は注目には値しない。特徴的な症状に注目すること！

§ 154 SRP が多く合致するなら、それは最適なレメディといえる。

今回のケース学習では、
主訴と SRP に注目して「ケースの統合」をすることが目的です。

「統合」とは、病の中心(何が癒やされるべきか?)であり、
「～～～の人」と表現できたら、ベストです。最初は、一文にこだわらず、箇条書きの方が、
良いかも知れません。
「統合」さえ出来たら、あとのレメディの選定までは単純作業になるはずです。

「統合」は、簡単ではありません。最初から100点満点の統合を目指すのではなく、とりあえずの仮統合を作って、個々の症状や全体的なつながりを考えて行くプロセスで、次第に、
明確に出来たら良いと思います。

これまで同様、「前分析--->分析」をした上で、「統合」まで進めてみましょう。
そして、統合が出来たら、レメディを探しましょう。

いつものように、ケース学習では守秘義務がありますので、教室を一旦出たら内容について話してはいけません。ケース本文は学習後に削除して下さい。

以上